

JASE

現代性教育 研究ジャーナル

MONTHLY JOURNAL of SEX EDUCATION TODAY

2016 年

No. 69

2016年12月15日(毎月15日)発行

日本性教育協会

THE JAPANESE
ASSOCIATION
FOR SEX EDUCATION

〒112-0002 東京都文京区小石川2-3-23 春日尚学ビル Tel.03-6801-9307 Mail info_jase@faje.or.jp URL http://www.jase.faje.or.jp 発行人 鈴木 勲 編集人 中山博邦
© JASE. 2016 All Rights Reserved. 本ホームページに掲載している文章、写真等すべてのコンテンツの無断複写・転載を禁じます。

contents

第17回JFS性科学セミナー報告……………1
Dr.上村茂仁の性の悩みクリニック⑨……………7
もっと知りたい女子の性⑩……………8

今月のブックガイド……………10
JASEインフォメーション……………11

◆第17回JFS 性科学セミナー報告

性科学、メディアに流れる”噂の真相”に迫る

9月17日(土曜日)午後1時より長野県長野市の長野赤十字病院南新棟2階第1研修ホールで、「性科学、メディアに流れる”噂の真相”に迫る」をテーマに第17回JFS性科学セミナーが開催された。主催の日本性科学連合(JFS)を構成する7団体のうち6団体の代表6名が、それぞれの専門分野から講演を行った。

開会にあたり、日本性科学連合の大川玲子会長は、日本性科学連合の成り立ちと構成団体の歴史を紹介した。続いて、早乙女智子氏(京都大学大学院医学研究科客員研究員)、高波真佐治氏(東邦大学医療センター佐倉病院泌尿器科)両座長のもとで、6名の講師が、それぞれの専門分野の立場から「性科学、メディアに流れる”噂の真相”に迫る」をテーマに講演を行った。

以下、その講演の概要を紹介する。午後1時10分より早乙女智子座長のもと、3氏の講演が始まった。

若者の目に触れる性情報のうそ、ほんと

性の健康医学財団(JFSHM)を代表して、東都医療大学ヒューマンケア学部看護学科教授の岩崎和代氏は、「若者の目に触れる性情報のうそ、ほんと」と題して講演を行った。岩崎氏は、東都医療大学で母性看護学・助産学の教授を行うだけでなく、北関東の小学校・中学校で思春期講座の実践や自発的な子宮頸がん



検診行動を高めるための研究活動・助産師教育を実践している。

導入で、岩崎氏は中学2年生を対象にした性情報の入手先の調査結果を紹介した。

男子では、雑誌、テレビ、友人、インターネット・携帯がほぼ同数で、先輩・年上の人という順番になっているという。女子は、友人が圧倒的に多く、学校の授業、インターネット・携帯と続き、雑誌からの情報入手、先輩や年上の人からはほぼ皆無で、多様なツ

性情報のウソ・ホントを見抜く力を伝授する

- ・性や性行為に対する不確かな情報や無知に対する情報提供
- ・曖昧な情報、無知や依存的な関係下で行われる性行動
- ・性行動のビギナーや経験者であっても、“妊娠”にびくびくしている。
- ・不安は“本来健康的な行為である性行為”を真逆な体験にする。

ルで性情報を入手する男子に比べ、口コミ情報が多いという結果であったという。

また、勤務する大学で女子学生に面接調査をしたところ、さまざまな口コミ情報が小学校のころから伝承されているという。

「男性に触れると妊娠すると思っていたので、なるべく触れなくなかった」(サンタクロースが存在しないということを知った小学校のころまで)

「何故、どうして赤ちゃんができるのか、生まれるのかわからなかった。何となく中学生になり知った」

「コンドームをすると妊娠しない。膈外射精なら妊娠しない」(多くの場合、この説得は行為直前でなく、性的接触のムードが出てきたときに囁かれる)

岩崎氏は、インターネットでの不安相談として、次のような女子の相談があることも紹介した。

「精液が目に入ると失明の可能性はあるって本当ですか？」

「妊娠する可能性について、膈の入り口の表面に精液がかかっただけで妊娠する可能性はあるのでしょうか？」

「手に精液がついて、その手で下着を触ってしまったんですが、それで妊娠しますか？」

岩崎氏は、若者の目に触れる性情報は、25年前に思春期電話相談事業に関わったころと同じような状況にあるといい、「若者の目に触れる性情報は、その先に控える性の健康や命に大きな影響を及ぼすものであり、性情報リテラシーの育成は性的状況の判断や行動に直結する。その意味で教育的に極めて重要である」と締めくくられた。

女子の性情報の現状分析に続いて、男子の状況を石川英二氏が講演された。



情報過多の中でひとり悩む男子の性：男子思春期外来と性教育の経験から

日本思春期学会（JSA）を代表して、神戸市立医療センター中央市民病院泌尿器科男性外来、石川クリニック院長の石川英二氏は、「情報過多の中でひとり悩む男子の性：男子思春期外来と性教育の経験から」と題して、情報に振りまわされた性の悩みについて、泌尿科医の立場から検討した内容について講演した。



石川氏は、男子の「パンツの中の秘めた性の悩み」という言葉を使い、①電話相談、②男子思春期外来、③性教育、それぞれの場面から見える悩みを紹介することから講演を始められた。

1989年～1995年での電話相談での思春期男子の悩みは、マスターベーションと包茎、1996年～2000年では、男女あわせて3790件の相談なかで、マスターベーション、性交、包茎、射精の順、2014年度の日本家族計画協会（JFPA）の722件の電話相談では、包茎、マスターベーション、性器の大小、射精などが多かったという。

その具体的な相談内容で多かったのは、「包茎は恥？病気？」、「包茎の手術は必要か？」、「マスターベーションは日に何回までならOK？」、「早漏は包茎だから？」、「短小は病気？」などであったという。

1988年～2015年での1236人の思春期外来（石川クリニック）では、包茎（479人）、亀頭包皮灸（272

短小で劣等感を訴える男子は多い。

- ・陰茎サイズと男らしさ：
相関はないが、短小で劣等感を訴える男子は多い。

- ・成長期の10歳代：陰茎も急激に大きくなる。

人) など、2003 年～2015 年での 171 人の男性外来(神戸市立医療センター)では、包茎(17 人)、心身症(12 人)、思春期遅発症疑い(8 人)などで、電話相談と違いマスターベーションの悩み相談は少なかったという。性教育の中では、異性の体・心理、男女交際、陰茎の大きさと包茎、マスターベーションであった、と報告された。

石川氏は、1988 年に神戸市で開業し、性教育にかかわり、1990 年に『ティーンズノート』を出版、1995 年には日本家族計画協会思春期地方クリニックを医院に併設、2003 年から現在まで神戸市立医療センター中央市民病院で思春期外来を担当してきている。これまでの経験から「パンツの中の悩みトップ3は、包茎、短小、早漏」であるという。

石川氏は、講演レジメの最後に、次のように今後の取り組みについて記している。

「中学時代に性器の大切さを教えてもらっていたら悩まずに済んだのに……。今でも中学校の先生を恨んでいる。その上、きつい自慰をし過ぎてしまい性器が歪んだ。何とかして欲しい」と性の悩みを訴えた青年を忘れられない。このように思春期には自己評価が劣り自己不全感や劣等感で自分嫌いに陥り易く、特にパンツの中の悩み・性に関する悩みは客観視することが困難である。そして、多くの情報に惑わされて自分ひとりで抱え込むことが多く、身体醜形障害となることがある。早めの解決が望ましい。そのために正しい性教育をしつつ、気軽に相談受診できるように務めたい。また、米国の小児科学会の薦める「恐怖感を残さない診療」を心がけていきたい。

石川氏の講演に続いて、前半の講演を林雄亮氏が、青少年の性行動全国調査に関する分析の報告で締めくくった。

「草食化」「絶食化」の再検討 分極化する青少年の性行動

日本性教育協会(JASE)を代表して、武蔵大学社会学部准教授の林雄亮氏は、日本性教育協会による「青少年の性行動全国調査」の1981年(第2回)調査から2011年(第7回)の調査データを計量社会学の立場から、「草食化」についての再検討した分析結果を報告された。

林氏は、レジメの冒頭で次の様に記している。

「草食化」「絶食化」をめぐる言説は、現代の若者が一枚岩かのような印象を与えかねず、彼ら／彼女らの本質を見失ってしまう危険性もはらんでいることを忘れてはならない。そこで本報告では、若者の「草食化」「絶食化」の再検討として、①性交経験率の低下と同時に起こっている性行動の低年齢化、②「草食(系)」「肉食(系)」などの青少年の質的な分化について計量的な方法から論じてみたい。

林氏は、「草食化」「絶食化」の裏側で起こっていることとして、初交経験の時期、すなわち初校年齢に着目すると、性交経験率の変化からはわからない「草食化」「絶食化」以外の青少年の性行動の変化が見えてくるという。

過去の調査データをすべて合併して、出生年によって全体を1963～68年、1969～74年、1975～80年、1981～86年、1987～92年、1993～99年の5つのコーホート(共通した因子を持ち、観察対象となる集団)に分類して初校年齢の時期を分析した。そこからは、「草食化」「絶食化」だけでなく、初交経験の低年齢化も同時に進行していることが見てくるという。

また林氏は、青少年の性行動は、「どのような層に分化しているか」についての分析結果も報告した。用いたデータは、2011年(第7回)調査。

男子5クラスモデル、女子4クラスモデルに分けている。

男子の場合の構成割合は、以下の通り。

- ①同性・異性の友人が比較的少ないが、交際経験や性交経験はあり、性的関心や性に対するイメージも「楽しい」考えている層 13.9%
- ②性に対する「楽しい」というイメージや性的関心はあるものの、友人は少なく、性行動の経験も乏しい層 19.6%
- ③友人も多く、性行動も活発な層 34.3%
- ④性的関心や性に対するイメージにおいて消極的な層 12.3%
- ⑤友人が多く、意識面で性にポジティブであるが、交



性行動の低年齢化が同時進行

- 現在の17～23歳層は、15歳までに男子9%、女子12%が性交経験済み
- とくに女子の性行動は調査開始以来、もっとも活発に
- 「草食化」の進行の裏で、低年齢化も進行
- 性行動が活発な層と、未経験層の共存(性行動の分極化)
- ただし、「性的なことへの関心」については新たな様相
 - ・「あなたは、今までに、性的なことに関心を持ったことがありますか」
 - ・「ある」の場合、「初めて関心を持ったのは何歳のときでしたか」

際経験が乏しく、性交経験がない層 19.9%

女子の場合の構成割合は、以下の通り。

- ①同性・異性の友人が比較的少ないが、交際経験や性交経験はあり、性的関心や性に対するイメージも考えている層 20.2%
- ②性的関心や性に対する楽しいイメージを持たず、性交経験もほぼないが、同性・異性の友人の交際経験は豊富な層 31.3%
- ③友人も多く、性行動も活発な層 18.6%
- ④交際経験が乏しく、性交経験はないが、友人づきあいや意識の面は中程度の層 29.9%

こうして見ると、男女ともに一枚岩ではなく、「草食化」「絶食化」をめぐる言説には登場しない層が多くを占めてくるということがわかるという。

林氏は、「青少年の性を語るうえでは、一部の層の特徴だけにフォーカスするのではなく、全体を見渡す視野の広さも重要であろう」と締めくくられた。

3氏の講演後、質疑応答が行われた。林氏の報告に多くの質問が寄せられた。

休憩をはさんで、高波真佐治氏（東邦大学医療センター佐倉病院泌尿器科）座長のもと、後半の講演が行われた。

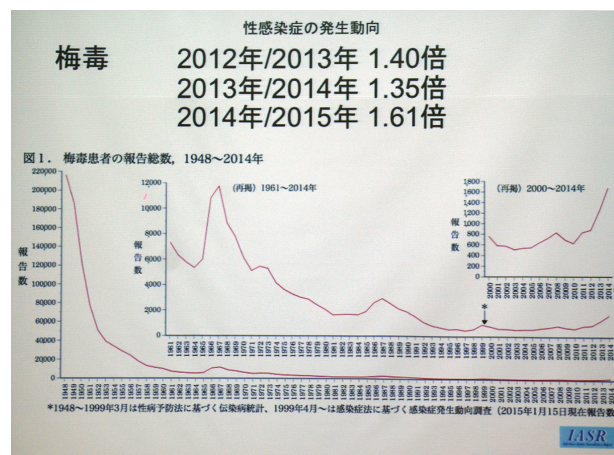
増加する梅毒

忘れてはならない病気

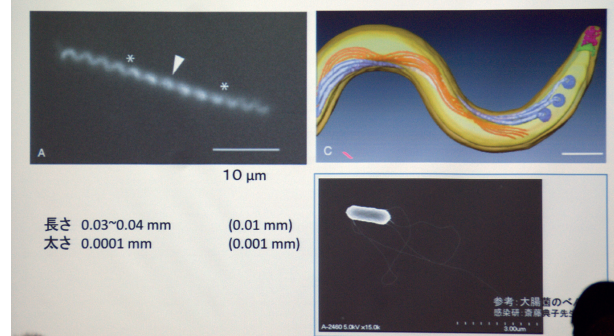
後半のトップは、日本性感染症学会（JSSTI）を代表して、国立感染症研究所細菌第一部部長の大西真氏が、「増加する梅毒－忘れてはならない病気－」と題して講演された。

忘れられた性感染症と思われていた梅毒が急増していることは、マスコミ報道で広く知られている。

大西氏は、その増加の現状から講演を始めた。梅毒



梅毒トレポネーマ



は、全数把握疾患（感染症法）で、診断した医師には報告義務がある。2000～2012年の間は、年間500～800症例が報告されていたが、2013年以降増加に転じ、3年連続で増加している。2013年に1,228例、2014年に1,671例、2015年に2,697例の報告がある。



他の性感染症は、把握方法が異なるにしても、このような急激な増加は認められないと大西氏は言う。大西氏は、なぜ、今、感染が増加しているのか、その増加の原因を十分に説明できる情報は存在しないがと前置きして、梅毒トレポネーマという細菌の特徴と感染の経路を解説された。

Aさんが梅毒と診断されたら、必ずその向こうにもう一人の、Bさんという梅毒に罹患している人がいることになる。少なくともAさんとBさんが直接接触した時には、Bさんの治療は開始されていなかった可能性が高い。当然、Bさんが感染した際には、（B

さんと関係のあったもう一人の) Cさんは感染源になりうる活動性の梅毒であったことになる。つまり、梅毒感染は性的活動の高い個人、性的パートナーが多い個人が感染した時に拡散効率が高まり、社会全体の患者数は増加するという。

包茎手術の過剰な広告と手術トラブル

日本性機能学会(JSSM)を代表して、東邦大学医学部教授(泌尿器科学講座)の永尾光一氏は、「包茎手術の過剰な広告と手術トラブル」と題する講演を行った。

東邦大学大森病院リプロダクションセンターを受診した他医院での包茎手術後の合併症(後遺症)では、高校生から大人の年代に行った手術がほとんどで、5つに分類できるという。

① 亀頭部の神経損傷による勃起障害・射精障害

代表例: 40歳代、亀頭部知覚障害。某美容外科で手術を受け、手術後に亀頭部知覚障害による勃起障害。

② 包皮過剰切除による勃起時ひきつれ

代表例: 20歳代、某美容外科で手術を受け、手術後より勃起時陰囊がつり上がって不快で受診。原因は包皮過剰切除。

③ 陰茎延長術(平常時のペニスを長くする長茎術)施行後の勃起障害

代表例: 40歳代、某クリニックにて陰茎延長術を施行後、症状が出現し受診。延長施術時に陰茎堤帯を切除するための術後勃起角度の低下が認められる。

④ 包皮移動によるマスターベーション習慣があった人の快感障害

代表例: 50歳代、某美容外科にて手術。勃起自体には問題がないが、マスターベーション時に、包皮切除により包皮の移動ができなくなったため。

⑤ 傷跡が汚い

代表例: 20歳代、縫合線と糸の跡が汚い。

これらの合併症の事例は、その大半が雑誌やネット



仮性包茎に関して(手術を受けた理由)

衛生上問題があり病気になると思った

⇒日本人は毎日風呂かシャワーを浴びるので衛生上の問題はない
アフリカの発展途上国では包茎がエイズの感染に影響ある

異性に包茎だと思われるのが恥ずかしい・異性に嫌われると思った
⇒女性に仮性包茎を問題と思わない

早漏の原因と思った

⇒早漏の原因ではない

包茎だと十分に自信が持てない・同性に包茎だと思われるのが恥ずかし
⇒仮性包茎は病気ではなく、多くの男性が仮性包茎状態になることがある

性交時にお互いが十分な刺激を得られないと思った
⇒仮性包茎は問題ない

※包茎手術の過剰な広告が原因

⇒結果的に不要な手術トラブルを招く

の広告を見て手術した患者が多いという。

永尾氏が講演の中で紹介した国民生活センターと全国の消費生活センターの直近のデータによると、相談件数 2131 件中、包茎手術の相談が 1092 件と半数以上を占めている。複数回答を含んでいるが、相談内容では、契約・解約に関する相談が 758 件(69.4%)と最も多く、次いで価格・料金に関する相談が 711 件(65.1%)となっている。年代別にみると 20 歳代が特に多く、646 件と全体の 59.1%と約 6 割を占めている。

手術を受けた人の 3 割以上が、即日契約、即日施術で、多くは 1 万円～10 万円であったが、即日契約の場合、100 万円を超える契約もあったという。

男子の性の悩みで、常に上位を占めている「包茎」に関するトラブルは、様々でかつ多い。永尾氏は、包茎に関する知識不足や誤解がその根底にあるという。

LBGT は人口の 7.6%は本当か

日本性科学連合第 17 回性科学セミナーの最後は、日本性科学会(JSSS)を代表して、はりまメンタルクリニック院長の針間克己氏が、「LBGT は人口の 7.6%は本当か」と題した講演を行った。

針間氏は、大学病院、裁判所、精神病院などさまざまなフィールドで精神医療に携わってきている。日本精神神経学会性同一性障害に関する委員会委員、日本性科学会幹事長、GID 学



会理事であり、『一人ひとりの性を大切に生きて生きる—インターセックス、性同一性障害、同性愛、性暴力への視点』などの著書がある。

針間氏は、3団体が行った調査を取り上げている。

株式会社電通におけるダイバーシティ（多様性）課題対応専門組織「電通ダイバーシティ・ラボ」は、2015年4月に全国69,989名を対象に、LGBTを含む性的少数者＝セクシュアル・マイノリティに関する広範な調査を実施。次の様な調査結果を公表している。

LGBT層に該当する人は7.6%（2012年調査では5.2%）。

電通の調査では、セクシュアリティを「身体の性別」、「心の性別」（自分は男だ、女だという性自認）、「好きになる相手・恋愛対象の相手の性別」の3つの組み合わせで分類し、独自の「セクシュアリティマップ」を元に、ストレート（異性愛者で、身体と心の性別が一致している人）セクシュアリティである（ストレート男性）と（ストレート女性）と答えた方以外をLGBT層と規定しています。

博報堂DYグループのLGBT総合研究所は6月1日、LGBTなどを含む性的マイノリティに関する意識調査の結果を発表した。

全国の20～59歳の個人、8万9366人を対象に実施した調査の結果、LGBT（レズビアン、ゲイ、バイセクシュアル、トランスジェンダー）は5.9%。この数字に、Aセクシュアル（誰にも対しても性的に惹

かれることがない人）など、その他の性的マイノリティに該当する2.1%を合わせた場合は8%と報告している。

連合（日本労働組合総連合会）は、2016年6月30日～7月4日の5日間「LGBTに関する職場の意識調査」をインターネットリサーチにより実施、その結果を2016年8月25日に公表している。

全国の20歳～59歳の有職男女1000名の有効サンプルを集計したもので、LGBT等（性的マイノリティ）当事者は8%と報告。この調査では、職場におけるLGBTハラスメントなどの調査も合わせて行っている。

針間氏は、電通の2012年調査の5.2%から7.6%への増加の理由や博報堂、連合などの調査の数値のかなりの違いに疑問を投げかけた。

針間氏は、結論として、①「トランスジェンダー」をどう捉えるかでかなりの幅がある、イコール性同一性障害は誤解をまねきそう、②AセクシャルやXジェンダーを加えるかどうかでだいぶ異なる、③電通調査等は、LGB＋性同一性障害のデータとイメージすると誤解を招く、といい、「クラスに3人くらい、セクシュアリティでなんらかの違いを感じている子どもがいそう、と捉えるのはよいだろう」と締めくくられた。

その後、質疑応答が行われ、セミナーは終了した。2017年度のセミナーは10月に大阪で開催される予定。

JASE 性教育・セクソロジーに関する資料室

資料室について

JASE 資料室は国内外の性教育、性科学等に関する文献資料を収集している開架式資料室です。文献資料の数は約6万点以上、現在も日々、増え続けています。性教育、セクソロジーに関する調査、研究のためにご利用いただけます。人間の性に関心がある方、ぜひ足をお運びください。

【閲覧】必ず事前に電話で予約が必要です（TEL 03-6801-9307）。貸出業務は行っておりません。

【開室日・時間】月～金曜日 10:30～17:30

【休室日】土・日曜日、祝日、年末年始 ※その他、会議等で臨時に休室することがあります。

【コピーサービス】コピー料金は用紙サイズにかかわらず1枚10円です。著作権法の許容する範囲で行うものとします。

<http://www.jase.faje.or.jp/pub/archive.html>

資料室 利用方法

収集文献・資料

統計・調査報告書、ジェンダー・フェミニズム、性教育一般・性教育の歴史的資料、国内雑誌、障害者、セクソロジー（自然科学系、人文・社会学系）、民俗学・文化人類学・風俗、性研究史・性学史、教科書・指導書・学習指導要領、幼児期～青年期、国内学術誌、国際（海外団体資料・海外学術誌）、高齢者・家族問題、文学・評論・エッセイ・文庫・新書、官公庁資料、JASE 刊行物、映像資料、個人論文、雑誌記事、新聞記事、絵本・写真集・マンガ、江幡・篠崎・朝山・石川・ダイヤモンド文庫、ほか。

<http://www3.jase.faje.or.jp/cgi-bin/search1.cgi>



連載第9回 ▶▶ どうみてもDV、でも友達が認めないのはなぜ？

友達の彼氏がどうみてもDV だと思うのです。

束縛もひどいし、たまに叩かれることもあるのに、彼女はDV とは違う、とても優しい人だと言い張ります。

友達がそう言うので、私も自信がなくなってきました。DV する人の特徴ってどんな感じですか。

デートDV に関して過去にアンケートをとって見たのですが、ほとんどの被害者は相手（私は婦人科医なので被害者は女性なのですが）のことを優しい人だと言います。また彼と別れたいかと聞くと70%以上の女性が別れたくない、仲良く一緒にいたいと話します。私も患者さんやメールで質問してくる人にDV について話しますがどうしても理解してもらえません。

私なりに実際の被害者の意見や文献からDV 加害者の特徴をまとめてみました。

◇危険な交際相手の特徴◇

- ①一人で過ごしたいというあなたの要求を尊重しない、四六時中あなたといたがる。
- ②あなたが外の世界のことに興味をもったり、家族や友人と会うのを嫌がる。
- ③あなたの髪型、服装、行動、交友関係、部活、バイト、仕事などについて自分の思い通りに変えようとする。
- ④過去に何度も恋愛で失敗している。
- ⑤重要な情報を隠していて、後であなたが発見した。
- ⑥非常に魅力的で口がうまく、調子がいい。
- ⑦規則は自分以外の人間のためにあると考えている。
- ⑧自分は特別な人間だと言う。そのように振る舞う。

◇DV の危険信号◇

- ①相手に対して落ちつかない、その気持ちがずっと続く。激しい怒りや恐怖を感じる。
- ②電話が怖い。相手といると退屈。
- ③相手のそばにいないと罪悪感を感じる。
- ④一緒にいると精神的に疲れ、人生を奪い取られている気がする。二人の価値観が違いすぎる。
- ⑤相手が魅力的だが、でき過ぎで嘘っぽい。

⑥いつもあなたのためだと約束させるので居心地が悪い。

⑦知り合ってからすぐ不自然に体を触られた。すぐに相手が過去の話や傷ついた話をし始めた。

⑧気持ちの上での繋がりを相手が早く持ちたがっている。性的な関係を早急に持ちたがる。

⑨自分や自分の計画、将来のことばかり話す。

まとめると、DV の加害者（DV する人）はあなたのことが大好きです。DV の加害者はあなたが今まで出会ったことがないくらい優しい人です。DV の加害者はあなたに対していつも一生懸命に関わってきます。メールも電話も会うことも時間をいっぱい使ってくれます。

DV の加害者は、会ってすぐに愛していると結婚したいとかいつまでの味方であるよとか言ってきます。DV の加害者は、自分が安心したいためにとてもたくさんの約束をします。その内容も細かいことが多く、束縛的です。DV の加害者は、あなたが約束を守るととても優しくなります。

DV の加害者は、あなたが約束を破ると、自殺するとか自分を傷つけるとかすぐに言います。また言葉で傷つけてきたり、無視したりします。DV の加害者は、急に怒りだし、あなたが謝るといや冗談でごまかして、また優しくなります。謝ってもまたすぐに同じことを繰り返します。DV の加害者（男性）は、だんだん避妊をしなくなります。または最初からしません。

DV の加害者は、二人の間に赤ちゃんができて結婚しても、その性格は悪くなることはあっても良くなりません。

夏の都知事選では、乱立する候補者の中で、自民党からの公認もなく、応援した議員は除名とまで言われた中で小池百合子さんが都知事に選出されました。また、アメリカ大統領選挙では、民主党のヒラリー・クリントンさんが破れ、共和党のドナルド・トランプさんが選ばれました。政策の違いだけでなく、アメリカはまだ女性を大統領にする社会的地盤が整っていないとも言われます。今年は、時代を動かす大きな選挙が続いています。



女性が首長になるのは、まだ珍しいことですが、実は日本で最初的女性首長は、1947（昭和22）年の第1回統一地方選挙で誕生した4名的女性村長だったそうです。最初的女性市長は、平成3年の芦屋市長、北村春江さん、最初的女性知事は平成12年の大阪府知事、太田房江さん。これまでに66名の首長がおり、現役首長は知事3名（北海道の高橋はるみ知事、山形県の吉村美栄子知事、東京都の小池百合子知事）、市長18名、特別区長1名、町長5名、村長0名の計27名です。結構多い、とも言えますし、それでも47都道府県で言えば知事率6%と、まだまだ2030運動、あるいはクォータ制を目指す女性比率30%超には程遠い数字ですし、当選すればニュースになります。

2016年10月、世界各国の男女平等の度合いを指数化した、世界経済フォーラム（WEF:World Economic Forum）の今年のジェンダーギャップ指数が発表になりました。日本は男女の公平性が著しく低く、去年の101位から大きく後退して調査対象144か国中111位と、過去最低の結果になりました。この指数は、女性の地位を経済、教育、政治、健康の4分野で分析して数値化したものです。健康や教育の機会均等にはさほど問題はありますが、経済や政治に関しては下から数えた方が早いのです。特に所得格差は、先進国で過少評価されていたことを考慮して計算方法が変わったこともあり、75位から100位に下がりましたが、国内では

あまり問題視されていないのではないのでしょうか。夫の扶養家族でいるには、年間所得103万円の所得税の壁、130万円の社会保険料の壁、そして160万円を突破しないと損をしてしまうという現状があり、専業主婦が保護されている分だけ女性の賃金は上がらないような仕組みになっているというべきか、それを150万円に引き上げるかどうかというレベルの議論では到底男女格差などなくなるわけです。世界的にも経済格差の改善のテンポが鈍っており、このままでは男女が経済的に平等になるには170年かかると試算されています。

それがどうしたの、と思う方もいらっしゃることでしょう。男性に養ってもらえれば、女性の収入など関係ない、という考え方もできます。しかし、一人一人の人生を考えた時、男性に養ってもらうという発想だけでいいのでしょうか。このジェンダーギャップ2位のフィンランドから来たティナ・ヴィルボネンさんによるとフィンランドでは専業主婦願望を持つ女性は100人に1人くらいかしら、とのことでした。国内では調査によりますが、30～70%くらいの女性が専業主婦願望を持っているようで、これは社会の在り方の違いといえるでしょう。経済的自立と精神的自立は必ずしも一致しませんが、精神的自立は経済的自立を容易にしますし、経済的自立は精神的自立を容易にするという点で、無関係ではありません。



九州のある自治体で製作された若い女性がスクール水着を着て「養って」と訴える特産のウナギのPR映像が問題になりました。黒い水着でウナギを表現したのはわかりますが、なぜ若い女性なのでしょう。しかも、養殖ウナギはほとんどオスになってしまうという話も考えると、スクール水着の男子が群れになって泳いでいればよかったのではないかと感じてしまいます。このように現実とは異なっているPRのために女性の水着姿を使うということに対して制作側が問題意識を持っていないのは、若い女性が養ってもらうのは当たり

前だという認識があるからでしょう。では養ってもらえなくなったらどうなるのでしょうか。ウナギなら食べられて終わりですが、女性はそうはいきません。男性より時給が安く、思いがけない妊娠で人生設計を簡単に変更せざるを得ない女性の視点で見ると、何とも苦々しいストーリーです。女性は子どもを産む、という前提で、養ってもらって当たり前だとしたら、妊娠しなかったらどうなるのか、産んだ後は養ってもらえなかったらどうなるのかと不安にならざるをえません。そのようなジェンダーギャップから経済的力関係の差が生じます。WEFはその格差を問題にしているのです。実際、若い女性が未婚のまま妊娠すると、学校から排除され、就業機会を失い、貧困に転じていきます。子どもの貧困が問題となっていますが、そもそも女性の妊娠が貧困につながる連鎖に介入するのが先でしょう。子どもの貧困の議論の中に、確実な避妊についての見識がないことにかねてより失望しています。

日本の女性は、国際社会の中で111位に転落したという認識をどれほどしているのでしょうか。女性の健康に関する講演の度に聴衆に問かけますが、まずこの順位を知らない人がほとんどです。自分がその順位なわけでもなく、自分の責任でそうなっているわけではないから、自分には直接関係ないと思うのでしょうか。しかしながら、女性の経済的・政治的地位の低さはそのまま施策や生活の結果として反映されています。つまり一人一人の生き様の総体がその順位、となればあなたも私も責任者なのです。もちろん、国のかじ取りをする政治や行政に委ねられるわけですが、安心して子どもが産めないことも、避妊や人工妊娠中絶を安心して受けられないことも、無関係ではないのです。誰か優秀な女性が特別なポストに就けばいいのではなく、能力に応じて男性も女性もなくその責任を負うことができるはずなのです。日本ではまだ、どこことなく女性が自分の価値を過少評価してその持てる力を発揮することを怖れているように思います。

性の多様性を考えると、妊娠に関することは個人的なこととされがちですが、LBGTの育児希望にも対応することを考慮すれば、依然として性の問題の重要な課題の一つと言えるでしょう。もちろん、女性だから産まなければならないわけでもなければ、男性だから

妊娠に関係ないわけでもないのですが、多様性として人権を語ることと、産む人の健康や人権を守ることはどちらも大切なことです。妊娠をする、させる、してもらう、という関係性を考えると、圧倒的に不利なのは実は自分で産めない男性だともいえます。

◇ ◇

12月4日、来日されていたフィンランドのティナ・ヴィルボネンさんの「男児の性器切除と身体の統合性・完全性に関する権利」の講義で、男性の包皮に関する言説のあれこれを伺うことができました。女性で言うと出産時の会陰切開や、慣習的に行われているFGM（女性性器切除）に相当することですが、男性の性の健康もあまり関心が払われてこなかったのだなあとと思います。親であっても無理に包皮を剥こうとするのは性加害に相当するのかなあと、漠然と思った次第です。

科学的な知識が増すほど、過去の医療や医療だと思われてきたことが覆されて行きます。医療でなければ治らないものもありますが、無駄なことも多いように思います。不要なものを不要と言え、その権利を行使するにも知識が要ります。性に関わる健康の科学的検証は、倫理的に研究しにくいこともあり、まだまだ進歩の余地があるようです。誰もが自分のからだのことに決める権利があります。妊娠するかしないを決めることや、体にメスを加えるかどうかなど、年齢、性別に関わらず大事なことです。高齢であっても、障がいを持っていても、養ってもらっている身でも、誰にとっても人権は大事なものです。日本でそのことがきちんと認識されているのでしょうか。私は医療従事者ですが、自己決定のできない妊婦さんも見かけます。もちろん、全ての人がきちんとした医学的知識を持つことは難しいとは思いますが、少なくとも自分のことは自分で決めるという雰囲気をみんなが持つことが大事です。

日本の女子は自分のからだのことを自分で決めているのでしょうか。決めていないとしたら、日本の将来についても無責任だということに他なりません。国が個人の自由を制限し、人が自分の自由を知らないのだとしたら、そこに未来は見いだせないのではないのでしょうか。女性も自分の身体を自分のものとして手に入れ、人生の幅を広げて欲しい、そんな風に願っています。

BOOK GUIDE

今月のブックガイド

“ボーイズラブ” 誕生史

いまや自分の性的指向、嗜好についてあけすけに語ることは当たり前の時代になったが、そんな風景はせいぜい1990年代以降のこと。前近代に見られるおおらかな日本の性は、近代化に伴い隠蔽された。それが戦後、自由とともに吹き出したさまざまな風俗、ウーマンリブや猥褻をめぐる裁判や、性教育の試み……などによって、再び可視化されるようになっていった。

いまや巨大なマーケットを形成するまでに至ったボーイズラブ（女性たちによる少年同士の性愛を嗜好する欲望）の表象も、1970年代の初頭、新人女性漫画家らの間に胚胎し、世に放たれたものだった。竹宮恵子著『少年の名はジルベール』は、元祖“ボーイズラブ”ともいえる著者の、伝説の“大泉サロン”についての回想録。のちに人気漫画家となった竹宮や萩尾望都らの共同生活と、そこに集った人々の人間模様、当時の出版状況について詳述している。

初期の少女漫画は紋切り型の物語ばかりが生産され、恋愛モノでもキスを描くのが精一杯、ハッピーエンドの先にあるものさえ表現しえなかった。そんなジャンルにおいていったいなぜ少年愛の世界を描くことが可能となったのか。そもそも同性愛自体が、社会的な禁忌の対象だったというのに。

「読者の少女たちは勝手だ。精神面だけでなくフィジカルも描いて、と言いつつ、露骨な表現には極めて厳しい。（略）フィジカルな何かを入れられる方法はないものか……」そんな問題意識を持っていた竹宮は、少年同士の魂や身体ふれあい、同性愛への憧憬も抱いていた。しかしそのような作品を描くことは常識外れもいところだったし、実際、編集部は首を縦にふらなかった。代表作となる『風と木の詩』は長くお蔵入りとなり、彼女はそのライフワークを世に出すために悪戦苦闘を繰



少年の名はジルベール

竹宮恵子著
小学館
定価 1400 円＋税

り返す。

男性中心の出版業界において、そうしたテーマの作品で編集者の理解を得ることは困難だった。もっとも、似たような作品の傾向を持つライバルの萩尾望都は、『ポーの一族』などの作品で評価を得つつあった。共通の編集者を持つ竹宮は、「少年愛的な部分を普遍的な、ある種共感できるドラマのなかに吸収できているかどうかの違いが、Yさん（筆者注・編集者）の掲載の判断の差にもなって表れていた」と焦りを感じざるを得なかった。

そこで、技術的な力量を身につけることを心がけ、マーケットでの実績を作るためにヒット作を生み出すことに専心する。さらに、『風と木の詩』の完成度を高めるため、編集部にと気づかれぬよう巧みに習作を発表し続け、ひそかに感性の共感を読者に広げていく。そうした艱難辛苦と努力の結果、やっとかの作品は世に出、大反響を巻き起こし、今日の“ボーイズラブ”分野の礎を築くこととなった。

これは漫画史としても興味深い、日本社会における性の歴史としても貴重な記録だろう。練馬の小さなサロンに芽生え、そこで形となった欲望の表現が、社会的なタブーを乗り越え、マーケットで支持を広げ、さらに一般的な承認まで得る……。その過程には、女性差別的な会社組織との関係や、漫画産業の労働環境などジェンダーの問題も深く関わってくる。

肝要なのは、小さな働きかけから社会は変わるし、その欲望が人口に膾炙すると、社会的なルールは編み直されるという事実。どのようにして構造が変化していくのかを、局所的な視点から明らかにしているという意味で、本書が社会学的に考察されるべき内容を含んでいることは間違いない。ちなみに、1970年代、1980年代を通じてこのジャンルが層を成していたからこそ、1990年代以降、日本のLGBT運動への共感は広がり易かった。メディアの関心を“腐女子”たちのマーケットが後押ししていたからである。

（作家 伏見憲明）

▶▶ **2月11日** (土・祝日) 13:00 ~ 17:30 ◀◀

東京HIVと性の教育セミナー 2017冬

トランスな私たちと性の健康 — ゲイ? レズビアン? ヘテロ? それとも? —

渋谷区同性パートナーシップ条例から1年、LGBTという言葉がふつうに使われるようになりましたが、LGBTのなかのトランスジェンダーの性の健康についてはほとんど語られません。LGBTという縦割りのくくりではおさまらない人たちもいるし、少数派になるほど健康リスクにさらされたりします。そんな埋もれたテーマを二人のトランスジェンダーのゲストとほりおこし、多様さの幅を広げます。1万人が回答したゲイ男性を対象にした出会い系アプリ上の最新調査(トランスジェンダーも回答には含まれる)の中間報告を共有しながら、学校や地域でなにができるか考えてみませんか?

ゲストスピーカー 浅沼智也さん (FTM ナースコーチ)、レディ X (MTF HIV+)

報告 「なぜなにアンケート LOVE & SEX 調査」中間報告 生島 嗣 (ぶれいす東京代表)
(厚生労働科学エイズ対策研究事業 研究班 平成28年度調査)

会場 日本性教育協会セミナールーム (東京都文京区小石川2-3-23 春日尚学ビルB1)

参加費・問い合わせ等 参加費: 1,000円 (資料代含) 定員: 30名 (定員になり次第締切)。
申込受付: 件名を「2月11日セミナー参加希望」とし、氏名を明記のうえ下記問合せ先アドレスまで。

対象: 性の健康と性教育に関心のある方、教職員、助産師、保健師、学生等。
主催: 特定非営利活動法人ぶれいす東京 協賛: 日本性教育協会
問合せ先: E-mail office@ptokyo.org TEL 03-3361-8964 (月~土 12~19時)

▶▶ **1月14日** (土) 10:00 ~ 16:30 ◀◀

第27回 女と健康フェスティバル

内容

テーマ: **女性と子どもの健康と権利を奪うDVと性暴力**

午前の部 10:00 ~ 分科会①「DV・性暴力被害者の回復に、身体へのアプローチは、どう効果的か?」
分科会②「女(わたし)が決める 女(わたし)のため 性・生・SAY」
分科会③「DV被害当事者の声」

午後の部 13:00 ~ シンポジウム [シンポジスト] 加藤治子 (産婦人科医、性暴力支援センター大阪・SACHICO代表)、胡桃沢伸 (精神科医)、山本恒雄 (愛育研究所客員研究員)。演劇公演「遊んで、お父さん」

会場 ドーンセンター
(大阪府立男女共同参画・青少年センター)

問い合わせ等 参加費: 前売り券 4,000円 (20歳以下 2,000円)
当日券 5,000円 (20歳以下 3,000円)

主催・問合せ先/ウィメンズセンター大阪
〒545-0051 大阪市阿倍野区旭町2-1-1 TEL 06-6632-7011

▶▶ **1月28日** (土) 18:00 ~ 20:00 ◀◀

「性と健康を考える女性専門家の会」勉強会 児童相談所における児童買春、 児童ポルノ被害児童への対応状況に関する報告

講師

赤嶺恵理 (杏林大学専任講師)
武子 愛 (NPO法人ライトハウス)

児童相談所における児童買春、児童ポルノへの対応について、全国の児童福祉司約2,800名を対象にアンケート調査および事例に対応していた児童福祉司にヒヤリング調査を行った。本発表では研究成果の共有にとどまらず、児童買春、児童ポルノ被害とは何か、被害に対して何ができるかを議論する。

会場 朝日エル会議室
(東京都中央区築地2-12-10 築地MFビル26号館5階)

問い合わせ等

参加費/会員 1,000円 一般 2,000円 学生 500円
申込方法/名前、所属、会員/非会員、連絡先(メールまたは電話番号)をメールで、「性と健康を考える女性専門家の会」事務局まで
E-mail pwcsh@ellesnet.co.jp

▶▶ 1月28日(土)～29日(日) ◀◀

DV被害者の心理療法研修会

内 容

加害行為の本質／加害者の心理療法の理論／ジェンダーと男性の精神病理／モチベーションを高める工夫／相手を尊重するコミュニケーションの作り方／心理教育的アプローチの実際／偏った認知の修正／リフレミング、ブリーフセラピーの応用／ほか

講 師

草柳和之（大東文化大学非常勤講師）

会 場

大東文化会館
（板橋区徳丸 2-4-21）

主催・問い合わせ等

受講料：2日予約 14,040 円（当日 16,200 円）

1日予約 7,560 円（当日 8,640 円）

主催・問合せ先／メンタルサービスセンター

〒176-8799 練馬郵便局留 TEL03-3993-6147 070-5016-1871

<http://www.5e.biglobe.ne.jp/~m-s-c/>

2 / 18 (土)

12:00～

第27回

日本性機能学会 東部総会

【プログラム】

ランチョンセミナー「Male LUTS 治療と性功能」

シンポジウム「撲滅！医原性機能障害」

イブニングセミナー「泌尿器科診療における女性性功能」

【会 場】 日本大学病院 5F大会議室

（東京都千代田区神田駿河台 1-6）

【主催・問い合わせ等】

事務局／第27回日本性機能学会東部総会事務局

日本大学医学部泌尿器科学系泌尿器科学分野内

〒173-8610 東京都板橋区大谷口上町 30-1

TEL03-3972-8111（内線 2513） FAX 03-3972-5930

E-mail med.urology@nihon-u.ac.jp 担当：吉澤

参加費／6,000 円

2014年3月 WAS 諮問委員会で承認された改訂版「性の権利宣言」を増補

《増補版》『セクシュアル・ヘルスの推進 行動のための提言』

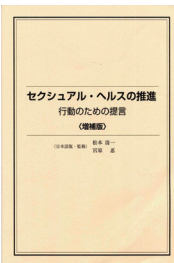
日本語版監修 松本清一・宮原 忍

◆B5判：72 頁、頒価 800 円

主な内容

セクシュアル・ヘルスの特徴／セクシュアル・ヘルス上の留意点と問題／セクシュアル・ヘルス増進のための行動と戦略／WASの「性の権利宣言（初版）」／WASの「性の権利宣言」（改訂版）

※送料：1冊 250 円、2冊～7冊 360 円、8・9冊 510 円、10～12冊 870 円、13冊～19冊 1180 円、20冊以上無料。

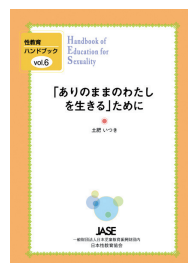


性教育ハンドブック Vol.6

『「ありのままのわたしを生きる」ために』

土肥いつき著

◆A5判：86 頁、頒価 500 円



主な内容

港にて（自分史の試み…）／船出のとき（小さなトゲのような思い…）／帆をあげる（教員生活のはじまり…）／舵を切る（「身体改造の」開始…）／嵐の中で／かすかに見えた航路／新たな旅へ

著者プロフィール

1985 年より京都府立高校教員。セクシュアルマイノリティ教職員ネットワーク副代表、トランスジェンダー生徒交流会世話人、まんまるの会（関西医科大学附属病院ジェンダークリニック受診者の会）世話人代表など。映画『coming out story』に出演。

既刊〈性教育ハンドブック〉

☆性教育ハンドブック Vol.5 『21 世紀の課題＝今こそ、エイズを考える』池上千寿子著 A5 判・68 頁 500 円

☆性教育ハンドブック Vol.4 『性教育の歴史を尋ねる～戦前編～』茂木輝順著 A5 判・92 頁 500 円

※送料：1～4冊 180 円、5冊～8冊 360 円、9冊 510 円、10～14冊 870 円、15冊～19冊 1180 円、20冊以上無料。

◆JASE ホームページ <http://www.jase.faje.or.jp/pub/pub.html> からお申し込みいただけます。

または、Email info_jase@faje.or.jp TEL 03-6801-9307 FAX 03-5800-0478